

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせてまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース/国会スポーツ
- 3面 読者のページ/まんが/短歌
- 4~5面 井選挙へ行こう 私の選択/ジェンダーリレー講座/ホットライン
- 6面 手づくり調味料/母の歴史
- 7面 改定版「4つの共同目標」産直運動さらに/学校給食



新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

#選挙に行こう!

〈関連記事4・5面〉



©2022「教育と愛国」製作委員会

映画『教育と愛国』

大阪・毎日放送が20年以上にわたる取材で教育現場危機に迫ったドキュメンタリー。2017年に報映され、ギャラクシー賞テレビ部門大賞を受賞した『映像'17 教育と愛国〜教科書でいま何が起きているのか』に追加取材と再構成を施し、映画版として仕上げた。東京3か所、大阪、京都などで全国順次上映中。(公式サイト <https://www.mbs.jp/kyoiku-aikoku/>)

「齊加さんは大阪を拠点に、7年間、テレビのドキュメンタリーを撮り続けてきたのです。映画では、撮りためた貴重な映像や教科書を攻撃する側、される側の当事者の

大きすぎる変化に唖然

発言からの政治圧力が可視化され、「ここまでできていたのか…」と驚きました。私自身も、映画を製作する中で、道徳の教科

化、教科書検定における

圧力、日本学術会議の新役員拒否問題…と、一つひとつの場面を数珠つなぎにしていた時に、「こんなにも大きな変化に至ってしまったんだ」と唖然としました。

この映画は、教科書検

定制度に焦点を当てたテレビ版ドキュメンタリー『教育と愛国』教科書でいま何が起きているのか(2017年放送)に追加取材を加えたものです。

このテーマを追うきっかけになったのは、2016年度に小学校の道徳教科書で「パン屋さん」が、検定後に「和菓子屋さん」に書き換えられたことです。和菓子屋になった理由は、「国や郷土を愛する態度に照らして不適切」という検定意見がつけられたから。

教科書を巡り、政府の圧力や介入が強まっており、子どもたちが自由に学び、先生が子どもの方を向いて自由に教える

政治で壊される教育、民主主義…

メディアの役割はたすとき



大阪・毎日放送 報道情報局ディレクター 齊加 尚代さん

さいかひさよ 1987年に毎日放送入社。報道記者を経て2015年からドキュメンタリー担当ディレクター。著書に『何が記者を殺すのか 大阪発ドキュメンタリーの現場から』(集英社新書)など

教育が政治の道具に

「教育現場の危機はその後一層深まっていく…そうなんです。テレビ放送から5年が経ち、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、過去の取材でお世話になった先生たちはじめ、子どもたちも学校現場全体が疲弊していると感じました。

2020年2月に当時の安倍首相が、まだ感染者のいない地域もあったにも関わらず、突然の全国一斉休校要請を表明しました。何も聞かされなかった現場はもろろ大混乱です。

大阪では松井大阪市長が教育委員会に相談もせず「オンライン授業を一齐に行う」と公表し、またしても学校現場が翻弄されるといふ事態になりました。教育委員会は教育

政権の本質は変わらない

「民主主義がじわじわと壊されていく政治は、岸田政権になっても変わっていませんね。

全然、変わっていませんよ。安倍、菅総理から岸田政権に変わっても本質はほぼ同じです。今の与党自民党はかつての自民党ではありません。

06年に高校日本史の教科書から沖繩の集団自決(強制集団死)の軍閥の記述が一部削除された時、当時の伊吹文明文科大臣は「教科書の記述を

政治家が変えることができたなら、日本は怖い国になる」と発言しています。

「教育と愛国」のマスコミ試写会が大阪で行われていた3月29日、高校の教科書検定結果が発表

され、「政府見解」に基づく検定基準に沿って「従軍慰安婦」が「慰安婦」に、朝鮮からの「強制連行」が「動員」や「徴用」に置き換えられました。

大阪だけではなく全国で第二次安倍政権(12年12月)以降、教育を政治の道具にして行く流れが強まってきたのではないかと。その象徴として社会科の教科書で史実の書き換えが起きている。政権の意に沿わない学者の排除も、同じ地続きの流れで起きていると感じました。

〈2面へ〉

